

台風の後に見られる海岸林の枯死現象について

問 台風の後、海岸林に枯死木が多数発生しました。この現象の原因と、耐性のある樹種について教えてください。
(治山係 A 生)

答 最近の例では昭和 56 年 8 月 23 日、本道を襲った台風 15 号は降雨後に強風を伴ったため、胆振東部・日高・十勝・釧路地方の太平洋海岸域の保安林や街路樹に、かなりの塩風害を発生させました。被害調査の結果から次のことがわかりました。

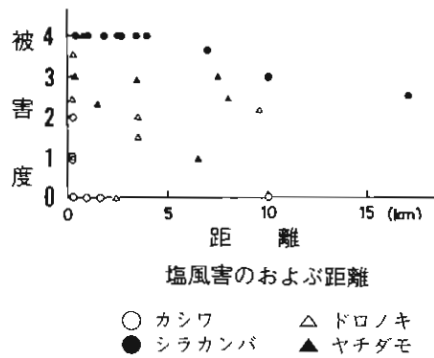
1) 相対着葉量から見た被害の程度は、海から吹き込んだ風量と密接な関係がありました。

2) 十勝川および釧路川の下流平野部において、樹種別にみた塩風害の及ぶ距離を図にします。シラカンバの被害は、かなり内陸にまで及んでいるのに反して、カシワでは数百mの範囲でおさまっており、その差は明らかです。両樹種の間段階にドロノキ、ヤチダモが位置しており、ドロノキはやや被害が軽い傾向がみられます。

3) ひらけた平野では、汀線から 5 km 以内にあるシラカンバ、コバノヤマハンノキ、ケヤマハンノキは激しい被害を受け、とくにシラカンバは大半が芽ぶきせずに枯死しています。10km ふきんまでは改植を要さないまでもかなり高い被害を受けました。このように内陸に入ると被害は減りながら約 20 km にまで及んでいます。

4) 各調査地における各樹種の相対的強さを整理して、生長期における塩風害に対する耐性を表にしめました。ここで、ヤチダモおよびニセアカシアについては一般に考えられているよりも弱い結果が得られている点が注目されます。この違いは、塩風害に対する耐性が季節によって異なっているのかも知れませんが、くわしいことはまだわかっていません。

5) 太平洋沿岸地域の汀線に近い海岸林の造成に用いる樹種としては、泥炭地にはドロノキ、ヤナギ類、グイマツ、アカエゾマツなど、砂質地には、カシワ、ミズナラなどがあげられるでしょう。
(防災科 薄井五郎)



生長期の塩風害に対する耐性

かなり強い	カシワ、グイマツ(千島系?), アカエゾマツ、チョウセンゴヨウ、カラマツ、トドマツ、モンタナマツ
やや強い-中庸	ドロノキ、ヤナギ類、ヤマグワ、ハンノキ(いわゆるヤチハン)、イタヤカエデ、ミヤマハンノキ、ハリギリ、ハルニレ
やや弱い	ヤチダモ、ナナカマド、ヤマナラシ、オニグルミ
非常に弱い	シラカンバ、ケヤマハンノキ、コバノヤマハンノキ、サクラ類、ニセアカシア、ホブラ類

防
災